

●1.朝日遺跡(愛知県清須市) ●2.土田遺跡(愛知県清須市) ●3.山 中遺跡(愛知県一宮市) ●4.北川田遺跡(愛知県一宮市) ●5.八王子 遺跡(愛知県一宮市) ●6.西上免遺跡(愛知県一宮市) ●7.北道手遺 跡(愛知県一宮市) ●8.高蔵遺跡(愛知県名古屋市熱田区)

図 本展覧会に関連する遺跡の所在地

■ 山中遺跡(愛知県一宮市)

弥生時代の遺跡が集中する萩原地区の北側に 位置する遺跡です。弥生時代後期の「山中式」土 器の標式遺跡となっており、パレス・スタイルの壺、 器台などがまとまって出土しています。



山中遺跡の土器/写真:一宮市博物館

■ 西上免遺跡(愛知県一宮市)

東海北陸自動車道の建設に伴って発掘調査が 行われ、古墳時代初期の前方後方墳、墳丘墓が見 つかりました。前方後方墳は、墳長約40m、周溝か らは3世紀の赤彩土器、Š字甕などが出土しました。





前方後方墳と周溝から出土した土器 /写真:愛知県埋蔵文化財センター

■ 八王子遺跡(愛知県一宮市)

尾張北部の拠点的な弥生集落です。逆さに埋められた銅鐸が出土したほか、弥生時代終末期には大溝に接して井泉が設けられ、多量の土器、木製品、銅鏃、ガラス小玉など、水辺の祭祀に関わる遺物が出土しました。





井泉と隣接する大溝から出土した土器 /写真:愛知県埋蔵文化財センター

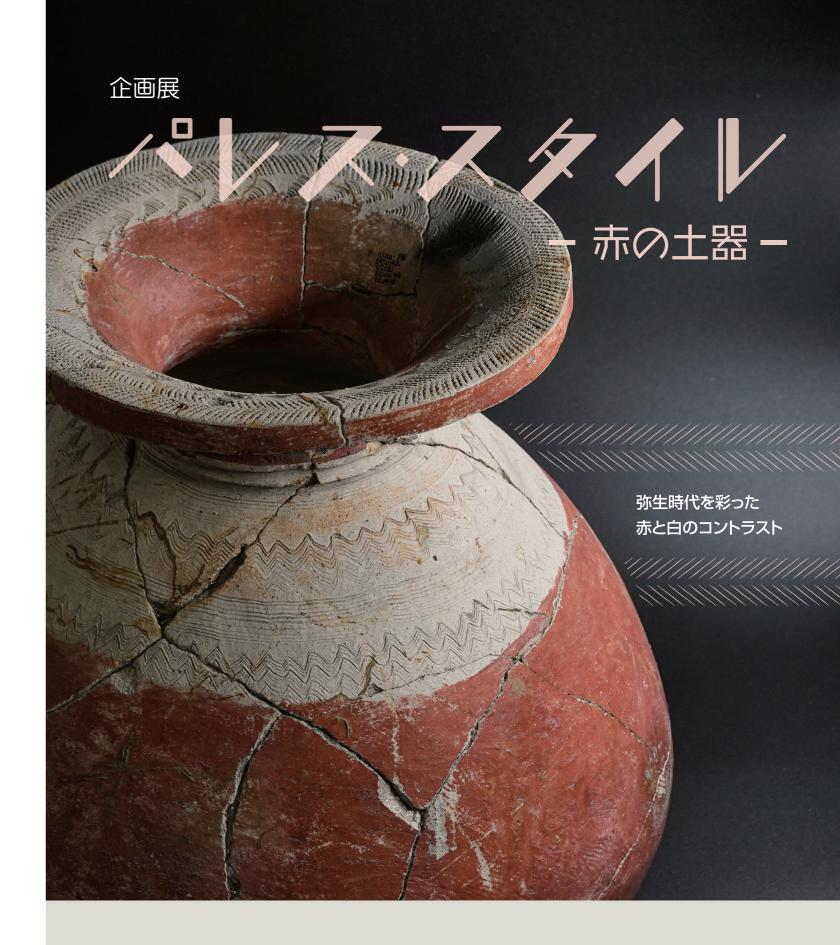
凡例

- ・本書は2021年4月24日から6月27日まで、あいち朝日遺跡ミュージアムで開催する企画展「パレス・スタイルー赤の土器-」の展示パンフレットである。
- ・本書の構成と実際の展示構成とは異なる部分がある。
- ・本書の時期区分は、弥生時代後期 $(1\sim2c)$ 、終末期 $(2\sim3c)$ 、 古墳時代前期 $(3\sim4c)$ とする。
- ・掲載資料のうち重要文化財には、「◎」を付している。
- ・本書の執筆・編集は原田幹が行った。
- ・本展覧会の開催にあたり、下記の機関・個人から協力を得た。 愛知県埋蔵文化財センター、愛知県埋蔵文化財調査センター、 一宮市博物館、城ヶ谷和宏、瀧はる香、堀木真美子



企画展 「パレス・スタイル - 赤の土器 - 」

編集・発行 あいち朝日遺跡ミュージアム 2021(令和3)年4月24日 TEL 052 - 409 - 1467



あいち朝日遺跡ミュージアム

パレス・スタイル 一赤の土器一

朝日遺跡 (愛知県清須市・名古屋市西区) の出土 品の中でもひときわ目を引くのが、赤く彩色された赤彩 土器です。この土器は、「パレス・スタイル土器 | とも呼 ばれています。弥生時代後期から古墳時代前期にか けて、尾張地域を中心に流行し、やがて初期の古墳 とともに、全国へと広がっていきました。

赤彩帯

凹線文

円形赤彩文

斜行線文

直線文

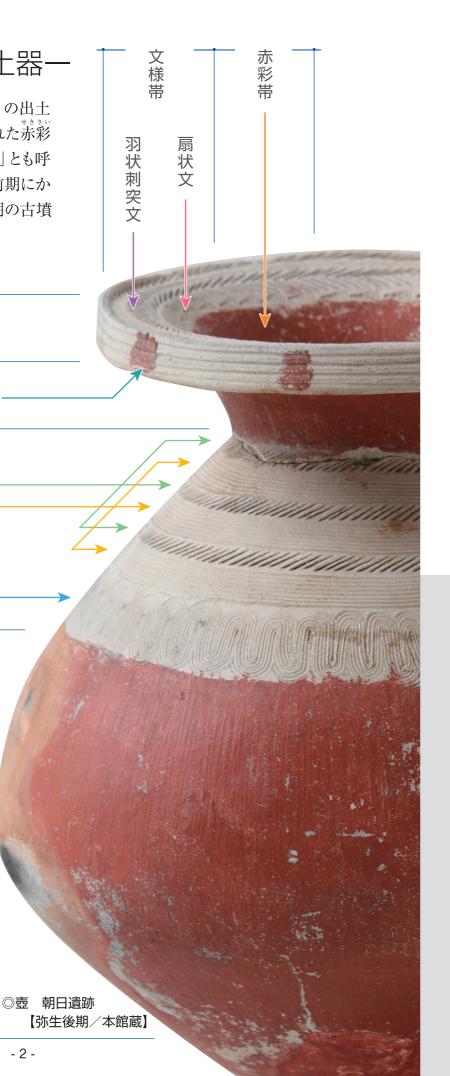
櫛描文による文様帯

波状文

赤彩带

■ パレス・スタイル土器の特徴

- ・赤い顔料を塗布した赤彩帯。壺の場 合は、口縁内面、口縁外面、体部下半 に赤彩を施すものが多くみられます。
- ・白っぽい地肌の上に配置された緻密 な文様帯。壺では、体部上半、口縁内 面の外側に文様が施されます。
- ・赤色が施される部分と地肌の白さを 残す部分が交互に配置され、赤と白 のコントラストが強調されています。





◎朝日遺跡のパレス・スタイル土器 左から壺・壺・高坏・台付壺 【弥生後期/本館蔵】

■ 重要文化財朝日遺跡出土品

重要文化財に指定された2028点の内、パレス・スタイル土器(赤彩土器)は、60点を 数えます。朝日遺跡の資料は、器種・装飾が多様性に富み、たいへん良い状態で埋 蔵されていました。まさに弥生美術を代表する造形品といえるでしょう。

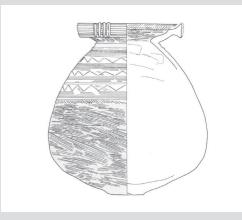
「パレス・スタイル」の由来

「パレス・スタイル」という名称は、ギリシャ・クレタ島のク ノッソス宮殿から出土した陶器に由来します。考古学者 浜田耕作(1881~1938)が、最初にこの名称を用いたと されています。

「・・・かの尾張熱田貝塚の出土品や、最近近江滋賀 村の大津宮址で発見せられたもの、如きは、かの希臘ク リート土器中、クノソスの遺品が特に清大で「パレース |式 と呼ばるか如く、彌生式土器中の「パレース |式と稱し度い 位の優品である。

浜田耕作1929「日本の古代土器 | 『史前学雑誌』第1巻 第4号

この論文で浜田がとりあげた尾張熱田貝塚は、名古 屋市熱田区の高蔵遺跡です。この壺は東京国立博物 館の所蔵で、国の重要文化財に指定されています。弥 生土器を代表する優品で、この土器をモデルとしたカプ セルトイのフィギアも作られています。



○赤彩壺の実測図 高蔵遺跡 (愛知県名古屋市田熱田区) 【東京国立博物館蔵/図:『愛知県史資料編2』】



上の資料をもとにしたフィギア

パレス・スタイル土器の形



【弥生後期/一宮市博物館蔵】



土田遺跡(愛知県清須市) 【弥生終末期/愛知県埋蔵文化財調査センター蔵】



壺 西上免遺跡(愛知県一宮市) 【古墳前期/一宮市博物館蔵】



壺 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】



壺 土田遺跡(愛知県清須市) 【弥生終末期/愛知県埋蔵文化財調査センター蔵】



壺 西上免遺跡(愛知県一宮市) 【古墳前期/一宮市博物館蔵】



◎高坏 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】



○高坏 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】



◎壺 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】



○台付壺 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】



壶 八王子遺跡(愛知県一宮市) 【弥生後期/一宮市博物館蔵】



◎鉢と蓋 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】

「パレス・スタイル」と呼ばれる赤彩土器。弥生時代後期には、壺だけでな く、高坏、ブランデーグラスのような形をした椀形の高坏、器台、鉢、小型の壺 など、多様な器種がみられます。弥生時代終末期以降、赤彩による装飾は、 壺に限られるようになっていきました。

柳ヶ坪型壺

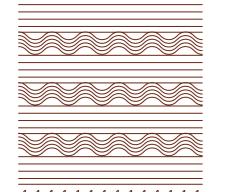
「柳ヶ坪型壺」は、愛知県東海市の柳ヶ坪遺跡の発掘調査 で出土した古墳時代前期の壺形土器に付けられた名称で す。有段口縁の内外面の羽状刺突文、下膨れのゆったりとし た体部、体部上半に配置された櫛描の文様帯など、同時期 のパレス・スタイル壺とよく似た点もあります。しかし、赤彩を施 さないこと、波状文が用いられていること、底部に木葉痕がみ られることなど、この時期のパレス・スタイル壺とは異なる点も多 く、別系統の土器と考えられます。

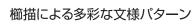


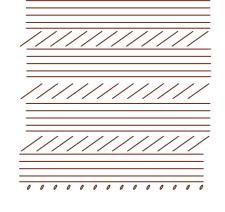
◎壺 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】

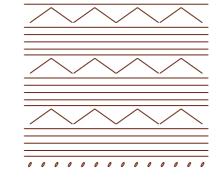
- 4 -

櫛描·刺突による施文











◎壺体部上半と口縁部の装飾 朝日遺跡【弥生終末期/本館蔵】



鮮やかな赤色に目が行きがちですが、緻密な櫛描文もパレス・スタイル土器の魅力のひとつです。体部上半は、直線文と波状文・斜行線文・山形文などを組み合わせて装飾されます。大きく広がる口縁には、羽状の刺突文を中心に文様を施しています。この文様パターンは、時期によっても変化していきました。

赤彩による装飾



壺 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】



◎壺 朝日遺跡【弥生後期/本館蔵】



○高坏 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】



高坏 朝日遺跡 【弥生後期/本館蔵】

通常赤彩は、一定の範囲を塗りつぶすように塗布されますが、まれにそれ自体を文様のように描いたものも見られます。 斑点、勾玉 (滴) のような形を配置したもの、あるいは筆のようなもので躍動的な曲線を一気に描いたものもあります。

弥生人を魅了した赤



◎赤色顔料入っていた壺 朝日遺跡【弥生中期/本館蔵】





水銀朱が付着した石杵 八王子遺跡(愛知県一宮市) 【弥生終末期/一宮市博物館蔵】

弥生時代終末期には、水銀朱が付着した 石杵、朱を入れたとみられる片口鉢や壺など がみられます。朱を用いた祭祀が行われてい たようです。



◎彩色された楯 朝日遺跡【弥生中期/本館蔵】

いにしえの人々にとって赤色は、身近であると同時に特別な意味をもった色だったようです。 弥生時代に用いられた赤色には、ベンガラと 水銀朱がありました。土器を装飾する赤色には、主にベンガラが使われていました。ベンガラは、酸化鉄を主成分とする顔料で、広い地域で比較的容易に入手できたようです。朝日遺跡では、ベンガラが入れられた壺がいくつか出土しています。水銀朱は産地が限られ、より希少な顔料でした。弥生時代終末期には、祭祀に関わるとみられる水銀朱が付着した土器や石器が見つかっています。





水銀朱が付着した鉢 北道手遺跡(愛知県一宮市) 【弥生終末期/一宮市博物館蔵】

木製品にも赤く彩色されたものがみられます。朝日遺跡では、楯、弓、鉢、竪櫛などに赤彩が施されていました。左写真の木製楯には、赤色で鋸歯状の装飾が描かれています。